

令和5年度
京都市会議員団による台南市派遣報告書

令和6年4月
台南市派遣京都市会議員団

はじめに

京都市会と台南市議会とは、平成24年4月に台南市が世界歴史都市連盟に加盟して以降、台南市議会議長や台南市長等による本市への訪問をはじめ、機会あるごとに交流を重ねる中、平成30年6月には本市会と台南市議会との間で友好交流協定を締結し、台南市議会訪問団による表敬訪問等の人的交流を重ねてきたほか、台南市からは、コロナ禍における物品の支援を受けるなど、更なる交流と相互理解を深めてまいりました。

この度、台南市から、同市において開催される2024台湾ランタンフェスティバルに御招待をいただいたことを受け、台南市議会や現地の友好交流団体、旅行業関係団体との意見交換及び歴史的建造物の活用事例の視察などを兼ね、令和6年2月23日から25日にかけて、京都市会議員団による台南市訪問を行いましたので、その概要を報告いたします。

京都市会からは、私と、寺田一博市会運営委員長、みちはた弘之議員、おんづか功議員、とがし豊議員が、京都市会議員団として台南市を訪問しました。

23日は、台南市議会との意見交換会に出席し、邱莉莉議長、林志展副議長をはじめ、8名の台南市議会議員と文化・産業・観光など、様々な分野について意見交換しました。

24日は、台南市台日文化友好交流基金会及び台南市旅行商業同業公会を訪問し、友好交流の促進や観光課題の解決に向けた取組など、今後の京都市の政策につながる意見交換ができました。

その後、歴史的建造物の活用事例として著名な林百貨と台南市美術館を視察し、林百貨では陳慧姝総経理から、台南市美術館では林秋芳館長から説明を受け、京都市美術館との交流について御意見を伺いました。

また、その後は台南市からの招待で、仙台市や山口県など、他の友好都市と共に2024台湾ランタンフェスティバル開幕式に出席しました。

25日は、台南市と友好関係にある16自治体による連合交流会に出席しました。連合交流会では黄偉哲台南市長の御挨拶の後、記念品交換を行い、今後の友好交流、相互連携の継続を確認しました。

今回、台南市議会との友好交流協定締結後、初めての訪問となりましたが、台南市議や友好交流団体、旅行業関係団体など、行政機関とは異なる立場の方々との意見交換をし、また、歴史的建造物の活用事例について学ぶことで、より広く、様々な気づきを得るとともに交流の輪を広げられたものと実感しております。

今後とも、今回の経験をいかし、本市における政策形成の展開につなげ、また、両市の友好交流の促進と発展に寄与できるよう努めてまいります。

台南市派遣京都市会議員団 団長 平山 よしかず

第1 京都市会議員団の派遣の目的及び台南市との友好交流の経過

1 派遣の目的

京都市会と台南市議会は、平成24年に台南市が世界歴史都市連盟に加盟して以降、台南市議会議長や台南市長等による本市への訪問をはじめ、機会あるごとに交流を重ね、友好関係を築いてきた。

平成30年には、京都市会において初めてとなる議会友好交流協定を台南市議会と締結し、台南市議会訪問団による表敬訪問等の人的交流や、コロナ禍において台南市や台南市台日文化友好交流基金会から保護メガネ等、物資の支援を受けるなど、更なる交流と相互理解の取組を進めてきている。令和3年6月には、京都市と台南市においても交流推進協定を締結している。

この度、令和5年8月8日付けで、台南市から、都市間交流を推進するため、令和6年2月24日に開催される台湾ランタンフェスティバルの開幕式に京都市を招待する旨の案内文書が届いた。

台南市は、台湾の中で最も歴史が古く、「台湾の京都」とも呼ばれ、歴史都市、観光都市としても発展しているなど、本市との共通点が多くあるため、政策上の課題や取組について共有を図ることは、双方にとり有益である。

このため、台南市からの招待に応じ、議会同士の交流がある京都市会から訪問団を派遣し、台湾ランタンフェスティバル開幕式へ出席して、京都市を代表して台南市に対し祝意を表するとともに、台南市の人々の生活、文化に直接触れ、台南市の文化形成の背景を体感する。

加えて、台南市議会、台南市台日文化友好交流基金会及び台南市旅行商業同業公会との意見交換、近代に建築された歴史的建造物の活用事例の視察、台南市の友好都市16都市による連合交流会（台南市長表敬訪問）などを通じて、意見交換、事例視察、人的交流の促進を図る。

これらにより、議会友好交流協定に定める「京都市会と台南市議会がこれまで培ってきた友好関係を確認し、更に促進させるとともに、京都市と台南市との間において、市民同士の交流の輪を広げ、様々な分野にわたり相互理解を深め、もって両市の発展に寄与する」ことの継続的な取組の実現を図る。

また、今般の派遣による一連の経験をいかし、政策提案を行うことなどによって、京都市会基本条例に規定する市会の役割を的確に果たしていく。

＜京都市会基本条例に定める市会の役割＞（関連項目抜粋）

- ・ 民意を反映する市会の特色をいかして、執行機関では成し得ない政策立案及び政策提案を行うこと。
- ・ 市長等との議論を通じてより良い政策及び施策の実現に努めること。
- ・ 充実した調査研究を基に、活発な審議及び審査並びに議員間における討議を行い、意見を集約すること。

2 台南市との友好交流の経過

(1) 京都市会と台南市議会との議会友好交流協定の締結

京都市会は、台南市が平成24年4月に世界歴史都市連盟に加盟して以降、台南市議会議長や議員、台南市長をはじめとする台南市の方々から、何度も本市への訪問を受けるなど、交流を重ねてきた。

(平成29年1月 台南市議会による京都市会表敬訪問・意見交換会)



平成29年10月には、京都市会議長が市会を代表して台南市を訪問し、台南市議会議長との間で、議会同士の交流の更なる促進により、市民同士の交流を進めることの必要性をはじめ、同じ古都として政策上の課題を共有し、お互いに学び合うことの重要性などについて確認した。また、京都市会議長から、当時の代理市長に対し、京都市長からの親書を手渡している。

(平成29年10月 京都市会議長による台南市訪問)



平成30年1月には、台南市議会から、両議会間の友好交流協定を締結したいとの意向が正式に示された。これを受け、京都市会においては、これまでに築いてきた両議会の友好関係を更に促進させるとともに、市民同士の交流の輪を広げ、相互理解を深めることが、両市の発展に寄与するとの考えの下、同年6月13日に、京都市会として初めての他都市議会との友好交流協定となる「京都市会と台南市議会との友好交流に関する協定」を締結した。

折しも、同年は、京都市の「世界文化自由都市宣言」から40周年という

節目の年に締結されたものであり、この協定は、「文化による世界との自由な交流と平和の実現」という宣言の理念にも沿うものである。

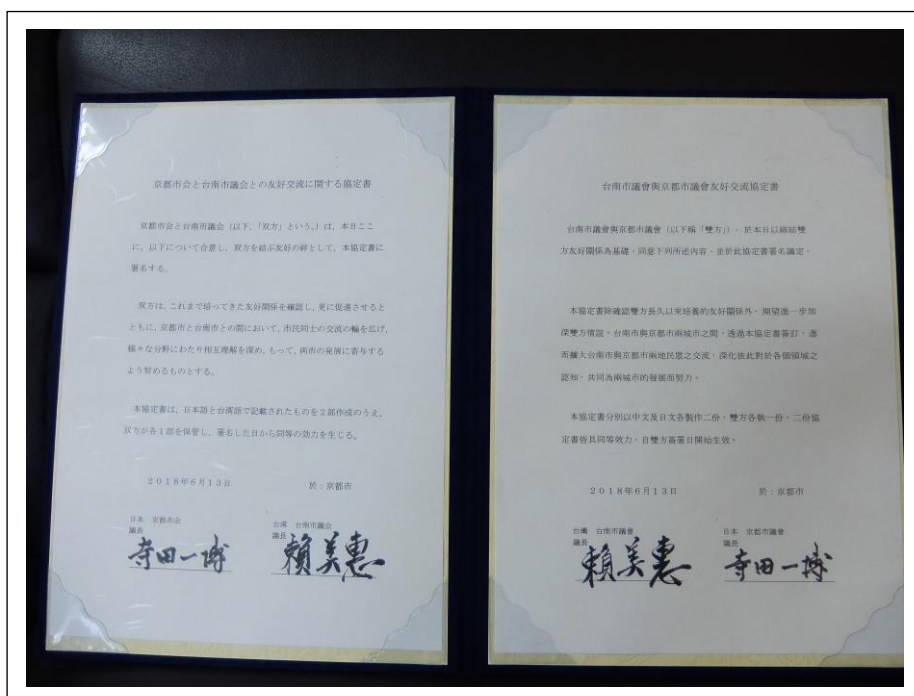
協定の締結式は、同日に、台南市議会議長をはじめとする議会の代表団を京都市会にお迎えして実施された。

(平成30年6月 京都市会と台南市議会との友好交流に関する協定締結式)



台南市議会からの協定締結記念品（壺）と協定書（写し）は、平成30年8月から10月末までの間、本庁舎1階と2階の間の踊り場に展示された。

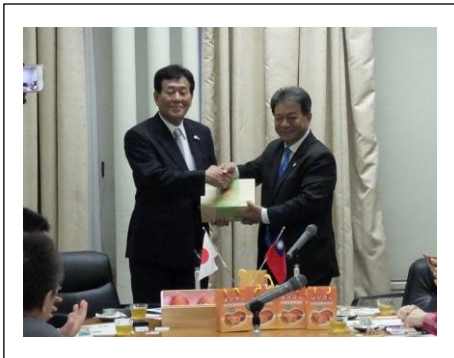
(協定書)



(2) 議会友好交流協定締結後の取組

令和元年7月11日、台南市議会訪問団、計44名の表敬訪問を受け、京都市会議長、副議長及び市会運営委員会理事が、京都市長同席の下、応対し、記念品の交換等を行った。

(令和元年7月 台南市議会からの表敬訪問の様子)



令和2年10月10日から同年12月25日までの間、台南市において、京都の西陣織をテーマにした「和風文化祭」が、京都市及び西陣織工業組合と連携して開催された。開催に当たり、京都市会議長から書面メッセージを、京都市会議長、副議長及び議会友好交流協定締結時の議長からお祝いビデオメッセージを送付した。

(令和2年10月 ビデオメッセージ及び和風文化祭でのビデオメッセージ紹介の様子)



(3) 京都市と台南市との交流推進協定の締結

令和3年6月、京都市会と台南市議会との友好交流協定締結3周年を迎えることを契機に、台南市の申出を受け、京都市と台南市が協定を締結した。締結式には、京都市会から、京都市会議長、副議長及び議会友好交流協定締結時の議長が出席した。

本協定は、文化・学術・観光など様々な分野における市民同士の交流を通じて、相互理解と連携を深め、両市の繁栄と発展に寄与するよう努めるものである。

(令和3年6月 京都市と台南市の交流推進協定締結式)



令和3年11月30日から令和4年1月9日までの間、台南市において、「台南市・京都市交流推進協定締結記念特別展示」が開催された。開催に当たり、京都市会議長、副議長及び議会友好交流協定締結時の議長からビデオメッセージを送付した。

(令和3年11月 ビデオメッセージ及び特別展示チラシ)



(4) 台南市及び台南市議会との友好交流 経過一覧

- 平成24年 4月 台南市が世界歴史都市連盟に加盟
9月 台南市長が市長を表敬訪問（市会議員同席）
12月 台南市教育委員会が本市教育委員会を訪問
- 平成25年 12月 台南市副市長が市長を表敬訪問（市会議員同席）
- 平成27年 11月 京都国際マンガ・アニメフェア2015の関連事業として、京都市、台南市双方でアニメによる文化交流事業を実施
- 平成28年 2月 6日に発生した台湾南部地震に対し、市長名（世界歴史都市連盟会長）にて見舞状を送付。国際交流会館に募金箱を設置
9月 台南市文化局長が市長を表敬訪問（市会議員同席）
- 平成29年 1月 台南市議会訪問団の表敬訪問
7月 台南女子高校の生徒が市長、議長を表敬訪問
8月 台南市長、台南市議会議員など訪問団が市長、議長を表敬訪問
10月 国立台南芸術大学関係者が市長、議長を表敬訪問
議長が台南市を訪問
- 平成30年 1月 台南市議会議長から友好交流協定締結を求める親書を受理
6月 13日に「京都市会と台南市議会との友好交流に関する協定」を締結
- 令和 元年 7月 台南市議会訪問団の表敬訪問
- 令和 2年 5月 台南市から保護メガネ300個の支援を受ける**
10月 台南市・台南市台日文化友好交流基金会により「和風文化祭」を開催。京都市・西陣織工業組合が連携し、展示等を実施。
開催に当たり、議長からの書面メッセージと、議長、副議長及び議会友好交流協定締結時の議長からお祝いのビデオメッセージを送付
11月 京都市国際交流会館にて「京都市・台南市相互展示コーナー」を設置し、台南市を紹介
- 令和 3年 6月 30日に執行機関において、京都市と台南市の交流推進協定を締結し、議長、副議長及び議会友好交流協定締結時の議長が出席
11月 30日から令和4年1月9日まで、台南市にて、台南市と京都市との交流推進協定締結を記念した「台南

市・京都市交流推進協定締結記念特別展示」を開催。
京都を紹介する展示、京都を舞台にした映画上映会、
京都文化講座等を実施。

開催に当たり、議長、副議長及び議会友好交流協定
締結時の議長から、お祝いのビデオメッセージを送付

令和 4年11月 京都市国際交流会館の国際交流イベント「kokokaオープンデイ」において、会館内に協定締結した
台南・高雄紹介コーナーを設置し、両市のパネル展示
や出身留学生による両市を紹介するギャラリートーク
を実施

令和 5年 7月 議会友好交流協定締結時の議長が日台交流サミット
開催実現に向けた協力要請のため訪台した際、市長か
ら台南市長、議長から台南市議会議長への親書を送付
12月 台南市議会事務局職員の表敬訪問

○ 台南市との民間交流

平成18年 京都大学と台湾国立成功大学（台南市）が防災・理工化学等の分野にて協定を締結

平成24年10月 高台寺が東日本大震災への台南市民の支援に感謝し、台南市で茶会を開催

平成27年 8月 日台おこしやす実行委員会により、「日台青少年文化交流 in KYOTO」を開催（平成29年7月、令和元年6月にも開催）

平成28年 3月 京都薬科大学と台湾国立成功大学（台南市）が学生交流、研究等の分野にて学術交流協定を締結

平成29年 6月 台南市長の要請で、台南公園内の日本庭園整備を北山造園の北山安夫代表（高台寺専属庭師）が実施。台南公園開園100周年記念式典に出席

令和 元年11月 京都先端科学大学と台湾国立成功大学（台南市）が学生・教員の交流、共同研究等の分野にて学術交流協定を締結

令和 2年 5月 台南市台日文化友好交流基金会から防護服520着、保護メガネ1,000個の支援を受ける

10月 台南市・台南市台日文化友好交流基金会により「和風文化祭」を開催。京都市・西陣織工業組合が連携し、展示等を実施

令和 4年12月 台南市からの台南古都国際ハーフマラソン大会の無料ランナー枠の提供を受け、京都市において広報した結果、3名の京都市民が同大会及び前日の歓迎会に参加

第2 派遣報告

1 派遣先

台南市（台湾）

2 訪問期間

令和6年2月23日（金・祝）～2月25日（日）

3 台南市派遣京都市会議員団

団長：平山 よしかず 議員（副議長 公明党京都市会議員団）

団員：寺田 一博 議員（市会運営委員会委員長 自由民主党京都市会議員団）

みちはた 弘之 議員（自由民主党京都市会議員団）

おんづか 功 議員（維新・京都・国民市会議員団）

とがし 豊 議員（日本共産党京都市会議員団）

随行：大西 則嘉（京都市会事務局調査課調査課長）

石田 衛（京都市会事務局総務課担当係長）

4 主要行程

月 日	現地時間	内 容	日本時間	
2月23日 (金・祝)	7:49	京都駅発		
	11:40	関西国際空港発		
	15:00	高雄国際空港発	16:00	
	17:15	ホテル発	18:15	
	18:00	台南市議会との意見交換会	19:00	
	20:40	意見交換会会場 発	21:40	
	20:45	藍晒圖文創園區・BCP(Blueprint Culture & Creative Park) ※視察	21:45	
	21:10	藍晒圖文創園區・BCP 発	22:10	
	21:30	ホテル着	22:30	
			※ 藍晒圖文創園區・BCP 1962年建築の旧司法宿舍「第一司法新村」区域を、2015年12月、新旧の文化・景観・アートの融合と発展をコンセプトに、人々が集う憩いの場&クリエイティブパークとしてリノベーションした複合施設。歴史的な建物の観光等での活用事例であり、台南市議会との意見交換会場から滞在先ホテルまでの経路上にあることから、現地において、立ち寄り視察したもの	
2月24日 (土)	9:20	ホテル発	10:20	
	9:45	台南市台日文化友好交流基金会との意見交換会	10:45	
	11:00	台南市旅行商業同業公会との意見交換会	12:00	
	13:30	歴史的建造物の活用事例に係る視察 林百貨	14:30	
	15:00	〃 台南市美術館（1号館）	16:00	
	16:00	〃 台南市美術館（2号館）	17:00	
			※1号館と2号館の視察の間に、台南市議会議事堂に立寄視察を実施	
	17:00	ホテル発	18:00	
	19:00	2024台湾ランタンフェスティバル開幕式	20:00	
	20:15	ランタンエリア観覧	21:15	
	21:30	開幕式会場 発	22:30	
22:40	ホテル着	23:40		
2月25日 (日)	8:30	ホテル発	9:30	
	9:00	連合交流会（台南市長表敬訪問）	10:00	
	12:20	高雄国際空港着	13:20	
	15:25	高雄国際空港発	16:25	
	19:10	関西国際空港着		
	20:16	関西空港駅発		
	21:32	京都駅着		

5 派遣報告

(1) 台南市議会との意見交換会

1 日 時 令和6年2月23日（金・祝） 18:00～20:30

2 場 所 名人坊 台南店

3 出席者

台南市議会

議長 邱 莉莉 氏
副議長 林 志展 氏
議員 陳 秋宏 氏
議員 沈 家鳳 氏
議員 林 美燕 氏
議員 蔡 宗豪 氏
議員 林 冠維 氏
議員 曾 之婕 氏

台南市議会事務局

秘書長 顏 昇祺 氏
主任 曾 耀德 氏
主任 曾 蘭芬 氏

台南市台日文化友好交流基金会

榮譽董事長 郭 貞慧 氏
董事長 李 退之 氏

台南市派遣京都市会議員団

団長：平山 よしかず 議員（副議長 公明党京都市会議員団）
団員：寺田 一博 議員（市会運営委員会委員長 自由民主党京都市会議員団）
みちはた 弘之 議員（自由民主党京都市会議員団）
おんづか 功 議員（維新・京都・国民市会議員団）
とがし 豊 議員（日本共産党京都市会議員団）
随員：大西 則嘉（京都市会事務局調査課調査課長）
石田 衛（京都市会事務局総務課担当係長）

4 テーマ

- ・ 観光振興のための文化資源の活用について
- ・ オーバーツーリズムの状況について
- ・ 伝統産業の後継者不足について
- ・ その他

5 台南市議会の概要

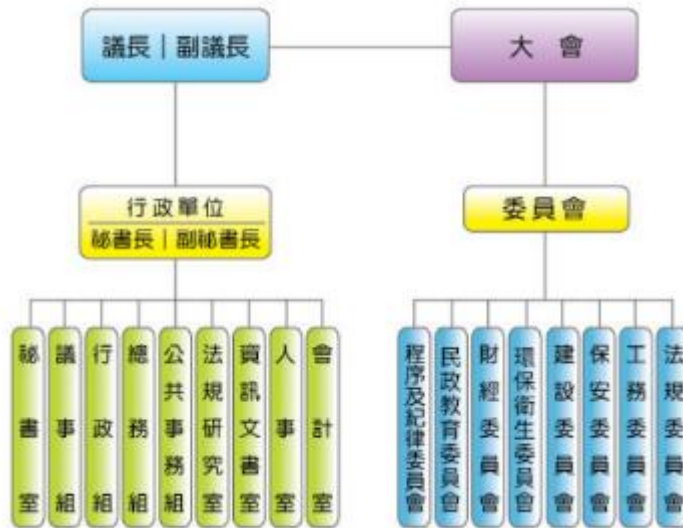
議員定数：57名

会派構成：民主進歩党（28）、中国国民党（12）、無党籍（12）、
無党団結聯盟（3）、台湾基進黨（1）、台湾団結聯盟（1）

委員会：程序・紀律、民生教育、財経、環保衛生、建設、保安、
工務、法規

交流協定締結先：石川県議会（平成23年10月）
 金沢市議会（平成29年1月）
 京都市会（平成30年6月）
 和歌山市議会（令和元年7月） ※覚書を締結
 山口県議会（令和3年5月）
 藤枝市議会（令和6年2月）

<台南市議会組織図>



・市議会議事堂



6 意見交換の内容まとめ

(1) 意見交換会について

京都市会議員団（以下「訪問団」という。）と邱莉莉議長、林志展副議長をはじめとする8名の台南市議会議員及び台南市台日文化友好交流基金会の郭貞慧荣誉董事長、李退之董事長の2名（以下「台南市議会側」という。）との間で、共に歴史都市、観光都市である京都市と台南市に共通する課題（上記「4 テーマ」参照）をテーマとして、意見交換を行った。

訪問団には自民党、維新・京都・国民、共産党、公明党と市会運営委員会における全ての交渉会派の議員が参加し、台南市議会からも民主進歩党、中国国民党、無党団結聯盟、無党籍の議員が参加されたことにより、幅広い立場の議員が集まった意義深い意見交換会の場を持つことができた。

(2) 各意見交換テーマにおける台南市の状況等

ア 観光振興のための文化資源の活用について

台南市は、400年前からオランダや日本などの国の影響を受けてきており、そうした国の文化や歴史を感じることができる古蹟が数多く残っている。それらが台南市の特色ある景観を形づくるものとして、保存に力を入れており、そうした地域でソフトウェアの開発に力を入れている所もあるとのことであった。また、邱議長から、歴史的な佇まいを残しながら新しい建物との融合を図って活用している好事例として、JR京都駅及び京都駅ビルの例を示され、台南市でもそうした手法を取り入れていきたい旨の話があった。

イ オーバーツーリズムの状況について

台南市においては、観光客（団体・貸切バス等）と市民（バイク）が用いる交通手段の違いなどから、京都市における市バスの混雑といった課題はないものの、道路幅が狭いことなどによる交通混雑が観光客の満足度のうえでの課題であるとのことであった。また、市民に対しては、観光名所、美術館、博物館等の入館料等を免除・割引するなど、混雑による不便から生じる不満の緩和につなげているとのことであった。なお、台南市民は全般的にホスピタリティが高く、旅行者を温かく迎えているとのことであった。

ウ 伝統産業の後継者不足について

台南市では、伝統産業として神事に用いる服飾品・彫刻品などを作っているが、若者離れが進んでいるとのことであった。解決策の一つとして、コンピュータデザインの活用などの取組が出てきており、伝統産業の分野にも時代に応じた変化が生じているとのことであった。

(3) その他

台南市は花きや果物等の農産業、商業などのほか、半導体製造やコンピュータソフトウェア開発等のハイテク産業にも力を入れているとのことであった。日本への投資については、外資企業の参入に対して厳しい面があるといったことや、日本で働く台湾の方からは、台湾は温かい弁当が一般的であるのに対し、日本は冷たい弁当が多く、食事面などを中心に、台湾人が働きやすい、住みやすい環境にしてほしいという意見を聞いているとの話があった。

また、少子化の問題について、台湾では出生率が0.87であることなどが示され、双方、あるいは東アジア全体の深い悩みであることを共有するとともに、その要因となる教育費をはじめ子育てに係る負担の状況や、不登校の課題の有無、不妊治療に対する考え方等について意見交換が行われた。

最後に、台南市議会側から、友好交流協定を機に、古都同士の交流、特に文化や芸術面での交流を行っていききたいとの提案があった。

【主要な意見交換等の内容の記録】

○ 観光振興のための文化資源の活用について

・ 歴史的建造物等の保存の取組について

訪問団から、京都では、町家など歴史的な建築物が減ってきているが、台南市の状況はどうか尋ねた。台南市議会側からは、台南には400年前からオランダ人や日本人など、世界各地から人が来ており、そうした民族が残された古蹟が数多くある。これも台南市の特色ある景観の一つになるとして保存に力を入れているとのことであった。邱議長からはこれまで京都市に3回ほど訪れたが、京都駅の古くからある駅の部分と新しい建物の部分の融合に感心し、台南市も新旧の建物を融合した活用方法について取り入れていきたい旨の発言があった。

○ オーバーツーリズムの状況について

・ コロナ後の観光業の回復状況等

訪問団から、コロナ後の日本からの旅行者の状況について確認したところ、台南市議会側から、台湾から日本への観光客は多いが、日本からの観光客はコロナ前に比べると少ない状況であるとの言及があった。また、台南市議会側から、日本ではホテルの料金がランクに応じてある程度一定であることから、観光客は宿泊代を想定しやすいが、台湾では同程度のホテルでも料金にばらつきがあるの

で、台湾のホテル業界は、日本のようにホテル間の料金について揃えるようにすべきだ、との認識が示された。

・ **市バスの混雑問題、運転手不足の問題**

訪問団から、京都では、コロナ前から、観光客の増加により市民が市バスに乗ることができないなどの問題が出ているが、台南市ではどうか尋ねた。また、京都市ではバスの便を増やしたいが、運転手のなり手がいないという問題があることを紹介し、台南市の状況尋ねた。台南市議会側からは、台南市でも人手不足の状況があり、運転手の確保の問題はあるとの言及があった。ただし、台南市には、団体で来られる観光客が多く、主に貸切バスを利用する、また、学生はスクールバス、そして、市民は主にバイクを利用するため、それほど市民が観光客の増加によるバスの混雑で困ることはないとのことであった

台南市では、目的地の建物前までバイクで移動することが多いとのことであり、確かに、訪問団が市内を車で移動している際も、至るところでバイクに乗る人の姿が見られ、また、建物の前に多くのバイクが止まっていた。自動車も京都とは異なり、道路の両端に白線枠で囲った駐車スペースが設けられており、道路の両端に多くの車が止められていて、目的地のごく近くまでバイクや車で移動することが一般的であると見受けられた。

・ **台南市におけるオーバーツーリズムの課題と市民理解のための政策等**

台南市議会側から、台南市におけるオーバーツーリズムの課題は、道路幅などが狭いところだとの言及があった。ゆったり観光ができないことから、リピーターになってもらいにくく、観光客の減少につながると懸念されており、今後はゆったり観光できるように取り組んでいくことが大切と考えているとのことであった。なお、混雑に関して言えば、2016年頃までは、中国からの観光客が非常に多く、高雄国際空港は大変混雑していたが、昨年6月以降は政治的な理由により中国からの渡航はゼロになっており、台湾としては、その解除を求めているとのことであった。

オーバーツーリズムによる市民の不便の緩和策につながるものとして、観光名所、美術館、博物館などにおいて、台南市民に対して割引や無料化を実施することで理解を得ているとのことであった。

○ 伝統産業における後継者不足の問題について

・ 若者の伝統産業離れ等

訪問団から、伝統産業における後継者不足の状況について尋ねたところ、台南市議会側から、台南市も同じであるとの認識が示された。台湾において、台南は神様の都市とも言われ、寺院や御廟が台湾の中で最も多く、伝統的な産業として、神様のための服装や飾り、木の彫刻などを作っているが、大変な仕事なので後継ぎが少ないとのことであった。給料も少なく、補助金も出ないため、若い人に人気がなく、仕事に就きたい、学びたいという意識にはつながっていないとのことであった。現在、解決策の一つとしては、コンピュータ、科学をいかしてデザインをするというものがあり、伝統工芸も変わってきているとの説明を受けた。

○ その他（産業・経済）について

訪問団から、伝統産業を含め、日本の課題は若い人の給料が低く、物価上昇に賃金が合わなくなっているので、社会全体で賃金を上げようと動いていると紹介した。また、台湾から日本への投資について、台湾側はどのように捉えているのか尋ねた。

台南市議会側からは、日本は、外資企業の参入に対して厳しい面があるとの意見があった。また、半導体世界大手のTSMC（台湾積体回路製造）が熊本県内に工場を建設したが、日本で働く台湾人からは台湾は温かい弁当が一般的であるのに対し、日本は冷たい弁当が多く、食事面など、台湾人が働きやすい、住みやすい環境にしてほしいという意見を聞いた、といった発言があった。このほか、台南市の北部にはTSMCも入っている地区（台南サイエンスパーク）があり、多くの自治体、団体が視察に来ているとのことであった。半導体のほか、コンピュータソフトウェアの開発などのハイテク産業、花きや果物などの農産業、商業も盛んであるため、様々な分野、場所を見てほしいとの提案があった。

○ その他（少子化）について

・ 少子化の状況等

訪問団から、日本では合計特殊出生率が低下し、少子化が進行しているが台湾の状況はどうか尋ねた。

台南市議会側から、台湾でも深刻であり、出生率は0.87であるとの発言があった。また、台湾では育児や教育に費用が掛かるため、国の政策として、乳児、幼児、小学生など、各段階で助成金を

出しているが、子育てと仕事の両立など、金銭面以外の課題もあり、若い人たちが結婚しない傾向にあることなどの説明があった。

このほか、昨年から希望する人に支援する形で不妊治療への補助金もスタートしているとの説明があった。

訪問団からは、日本の出生率は1.21だが、京都はさらに悪く、双方、同じ悩みを抱えている、東アジア全体の問題であり、対策を講じないといけない、との発言があった。

・ 不登校の課題等

訪問団から、台湾における不登校の課題はあるかについて尋ねたところ、台南市議会側から、台湾では学校には強制的に行かなければならないこと、行かなければ虐待などの可能性があるとして、警察、市政府社会局、医師などが協力し、虐待や病気など原因を明らかにして解決を図っていることなどの説明があった。

また、25人から100人程度の規模の学校が多く、一人一人の長所に合わせたエリート教育のような特別な教育を実施するとともに、そこに適応できない場合は、違う特色のある学校に移ることもできること、さらには、全額自己負担となるが、親が自ら教育計画を立てて行政に提出すれば、家庭学習が認められる制度があることなどの説明があった。

校則は、かつては厳しかったが、現在は緩められてきており、今度は、社会規範の教育が課題となっているとのことであった。

・ 教育費負担の内容等

台南市議会側からの説明では、共働きの親を支えるために学校は小学校から高等学校まで、朝7時から授業が始まり夕方4時まで預かってくれるが、その後は、多くの家庭が塾で勉強させているとのことであった。教育費については、幼稚園以外の授業料は高くはない一方、塾に通う経費がとても高く、なんとかしなければならないとの意見があった。

訪問団から、日本でも、子育てに係る経済的負担の軽減が必要と考えている、とりわけ、奨学金の返済は若い世代の余裕を奪い、結婚や子どもを育てるうえで大きな妨げとなっており、その負担軽減が求められているとの意見があった。

○ その他（京都市と台南市との文化芸術交流）について

台南市議会側から、台南市にとって、京都市は議会友好交流協定もあり、同じ古都なので、特別な関係にあるとの認識が示された。また、京都には古都としての価値があり、友好交流協定の締結を契機

に、古都同士の交流、特に文化や芸術分野の交流をしたいとの意向が示された。

(出席者一同)



(テーマ説明)



(平山団長 挨拶)



(邱議長 挨拶)



(意見交換の様子)



(2) 台南市台日文化友好交流基金会との意見交換会

- 1 日 時 令和6年2月24日(土) 9:45～10:45
- 2 場 所 台南市台日文化友好交流基金会 事務所
(台南市東区東門路二段158巷68號)
- 3 内 容 台南市台日文化友好交流基金会の活動内容や、今後の相互協力の可能性について

4 出席者

台南市台日文化友好交流基金会

荣誉董事長 郭 貞慧 氏

董事長 李 退之 氏

台南市派遣京都市會議員団

団長：平山 よしかず 議員(副議長 公明党京都市會議員団)

団員：寺田 一博 議員(市会運営委員会委員長 自由民主党京都市會議員団)

みちはた 弘之 議員(自由民主党京都市會議員団)

おんづか 功 議員(維新・京都・国民市會議員団)

とがし 豊 議員(日本共産党京都市會議員団)

随行者：大西 則嘉(京都市会事務局調査課調査課長)

石田 衛(京都市会事務局総務課担当係長)

5 財団法人台南市台日文化友好交流基金会の概要

(1) 設 立 2008年

「台南県台日友好交流協会」として設立。その後2009年5月に「台南市台日友好交流協会」に、2020年2月に「台南市台日文化友好交流基金会」に名称変更。

(2) 目 的 台南市において、日本国との交流に対する理解・促進を図る。

(3) 日本に関する主な取組

- ・ 日台交流事業や日本文化紹介事業の主催
- ・ 日本企業の投資環境整備のための交流会、日台農業交流に係るイベントの主催・共催
- ・ 日本・台南市双方の行政関係者、議員、民間団体等の往来に係るコーディネート

※ これら日本と台湾の相互理解の促進の取組が認められ、令和5年度外務大臣表彰を受賞。

6 意見交換等の内容まとめ

(1) 視察

台南市台日文化友好交流基金会(以下「基金会」という。)との意見交換に先立ち、基金会の建物として使用されている、市の古蹟に指定されている旧台南州立農事試験場宿舍群や、元農事試験場工場長官舎をリノ

ベーションしたギャラリー（当日は「千年耀長青 - 揀寒齋藏耀州窯展」開催）等を視察した。基金会は、日本についての様々な相談の窓口としての機能を果たしており、日本についての情報を得たい台南市民が訪れる場所となっている。基金会やその周辺の建物群は、木造平屋建ての家屋が軒を連ねる昭和初期の日本の風情を醸し出し、日本に関する情報発信の拠点となっている基金会の趣旨とも調和したものとなっていた。

基金会建物内部では、台南市と日本の友好都市（石川県加賀市）の間での友好交流の取組による、小学生の絵が絵付けされた九谷焼の絵皿の展示や、能登半島地震への義援金募金の取組等が行われていた。

（２）意見交換

基金会から、これまでの京都との交流の取組について説明を受けるとともに、日本の他の友好都市との交流の取組について聴取した。

また、台南市美術館と京都市美術館との交流等や民間団体との更なる取組を進めていきたい意向などをお聞きし、基金会の熱意ある取組に謝意をお示しした。

訪問団としては、前日の台南市議会との意見交換会と同じく、台南の人々の京都に対する友好交流の熱意や真摯な思いを改めてひしひしと感じた。

その一方で、例えば、基金会には、日本の情報を求める台南市民に向け、友好都市等が都市のPRをするパンフレット等の配架棚があったが、他の友好都市のパンフレットは置かれている中、京都市のパンフレットは置かれていなかった。これはあくまで一例であるが、京都市と台南市の友好交流の取組についても、台南市から京都市への働きかけの方向性の中で実現しているものは多いが、京都市から台南市への働きかけの方向性の中で実現しているものは少ないと見受けられ、京都市から台南市に向けた友好交流の取組についての熱量が少ないとの感を抱くものとなった。

今回、基金会を訪れ、状況をお聞きしたことで、日本の他の友好都市は、相当積極的に台南市との交流を進めていることがよく分かった。京都市は世界的に有名な都市であり、日本の他の都市とは立ち位置が異なる部分はあるかもしれないが、台南市は、京都市にとって、議会同士が友好交流協定を結び、また、京都市自身も市同士で交流推進協定を結んでいる特別な位置付けのある都市であることに鑑みると、やはり、京都市から台南市に向けた友好交流の取組について、より積極的な姿勢で臨むことが、両市のより良い関係の構築に向け、望ましいものであるとの認識を新たにすることとなった。

【主要な意見交換等の内容の記録】

○ 歴史的建造物の活用事例の視察

基金会との意見交換に先立ち、基金会の建物として使用されている、市の古蹟に指定されている旧台南州立農事試験場宿舎群や、元農業試験場工場長官舎をリノベーションしたギャラリー（当日は「千年耀長青—揀寒齋藏耀州窯展耀州窯展」開催）等を視察した。これらは、古くからの建物を修繕し活用しているものであり、周辺の一帯が木造平屋建てで日本らしい風情を醸し出していた。日本との友好交流を促進する、日本に関する情報発信の拠点となっている建物として、趣の深い風情を感じさせ、日本について様々なことを知りたいということで現地を訪れる台南市民に対し、効果的な雰囲気を用意していた。

また、隣の環境保護局の施設で実施されていたリサイクルマーケット（リサイクルマーケット）なども視察した。ここでは、引き取った家具等を技術者が修復して再販する仕組みを構築しており、循環型社会を推進しながら、技術者の支援にもつなげていた。

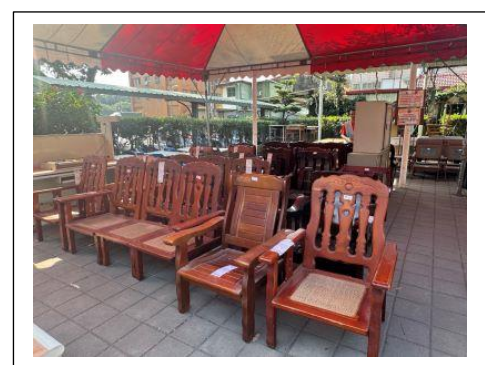
（旧台南州立農事試験場宿舎群）



（ギャラリーとして活用）



（環境保護局 蔵金閣）



○ 基金会からの要望

基金会では、日本に関する様々な情報を提供するとともに、台南市民からの日本に対する旅行、留学、投資、日本との交流等、様々な相談に応じる窓口の役割を担っている。建物の前に、日本の各都市が自らの都市を紹介できるようパンフレット等の資料を置くことができる棚があった。基金会から、是非、京都の資料も置いてほしいとの要望があった。

(基金会建物)



(友好都市等のパンフレット等配架棚)



○ 基金会建物の修繕の工夫等

基金会が使用している建物（旧台南州立農業試験場宿舎）の修復、活用にあたっては、日本の漆喰がないため、別の素材を用いて、伝統的日本家屋の雰囲気再現しているとのことであった。

(修復前の壁を一部残した床の間)



○ 台南市と日本の友好都市との取組事例等

台南市の友好都市である加賀市（石川県）と台南市双方の小学校の取組で、小学生の絵を陶磁器に絵付けした九谷焼の絵皿を展示する友好交流の取組が行われていた。また、能登半島地震への義援金募金箱が置いてあり、寄付した方に小学生の絵が描かれたキーホルダー、絵葉書を配布されていた。

このほか、予約制で和装のレンタルを実施されたり、日本の良いもの

(当日は、埼玉県秩父の芝桜の緑茶を販売していると紹介された)を販売されたり、現地で日本の文化を紹介されていた。また、台南への関わりが積極的な自治体の取組についての言及があった。日本の多くの都市が台南市との友好交流の取組を積極的に進めていることが分かった。

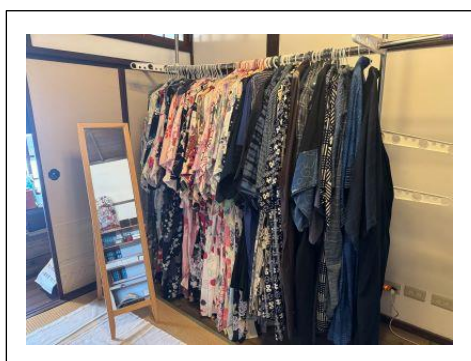
(友好都市との交流作品展示)



(能登半島地震義援金募金活動)



(貸出用の着物・浴衣・雪駄等)



○ 基金会と京都との友好交流の取組等

基金会から、これまで、京都市立芸術大学と台南市内の大学（台南應用科技大学）が交流して音楽会を行ったとのことなどについて紹介があった。また、今後の予定として、基金会では訪問団に参加している議員

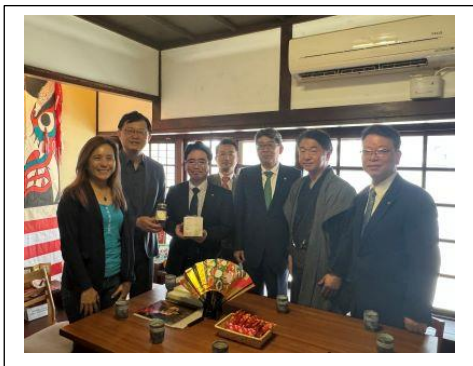
を通じて、台湾の陶芸家が京都で展示する予定があること、夏頃に京都市内の女子高校と台南女子高校との間で音楽交流会を行うことを企画中であり、実施の際には訪問団にも出席してもらいたいこと、8月に研究者による特別な昆虫討論会が京都で行われる予定もあり、五山の送り火もある時期に当たることから、台湾からも多くの方が行くであろうことなど、子どもから大人まで多くの交流について紹介され、これからも京都で交流を進めていきたいとの意向が示された。また、その際には、李董事長等が京都市に表敬訪問したいとの意向が示され、訪問団においてお聞きした。

また、台南市美術館と京都市美術館の交流をしていきたいこと、さらには、文化芸術に関わる京都の団体ともより広く交流していきたいこと、京都市を訪れ、宗教面なども含め京都をより深く理解していきたいことなどの意向が示された。訪問団として、お話をお聞きするとともに、基金會在京都市との文化や芸術の交流推進について大変熱心な思いを持っていただいていることに対し、謝意を示した。

(意見交換の様子)



(記念品の交換)



(3) 台南市旅行商業同業公会との意見交換会

- 1 日 時 令和6年2月24日(土) 11:00~12:00
2 場 所 台南市旅行商業同業公会事務所(台南市東区東門路一段358號)
3 内 容 活動内容や台南旅行業界の未来、今後の相互協力の可能性について

4 出席者

台南市旅行商業同業公会

理事長 蔡承鴻 氏
監事会主席 李佳璉 氏
副理事長 王憲文 氏
常務理事 王素敏 氏
常務監事 李怡甄 氏
常務理事 李航 氏
理事 林燕虹 氏
監事 劉勇彰 氏

台南市派遣京都市會議員団

団長：平山 よしかず 議員(副議長 公明党京都市會議員団)
団員：寺田 一博 議員(市会運営委員会委員長 自由民主党京都市會議員団)
みちはた 弘之 議員(自由民主党京都市會議員団)
おんづか 功 議員(維新・京都・国民市會議員団)
とがし 豊 議員(日本共産党京都市會議員団)
随員：大西 則嘉(京都市会事務局調査課調査課長)
石田 衛(京都市会事務局総務課担当係長)

5 台南市旅行商業同業公会の概要

- (1) 設 立 1975年
(2) 目 的 国内外の観光促進、経済発展の促進、政府の行政命令の実施を支援
(3) 主な業務内容
- ・ 国内外の観光に関する調査、統計、研究開発、国際観光の連絡、紹介及び推進
 - ・ 同業者間の紛争の調停
 - ・ 政府の経済政策および商法の実施、研究、推奨を支援
 - ・ 業界従業員向けの技能研修・ビジネスセミナーの開催、会員観光業の広告・展示
- (4) 日本に関する主な取組
- ・ 金沢市観光協会と友好交流協定締結
 - ・ みなかみ町観光協会と友好協定締結
 - ・ 仙台観光国際協会と相互協力協定締結

6 意見交換の内容まとめ

台南市旅行商業同業公会（以下「同業公会」という。）との意見交換の中で、同業公会理事の肌感覚の話として、台南（あるいは台湾）では、日本の観光先の中で東京、大阪の人気が高く、大阪への旅行者の中に、京都にも行く人がいる、というのが京都の位置付けであることが分かった。

その背景には、京都への旅行プランを作成する台南の旅行者や旅行者に、京都の分散観光につながるような周辺情報等が入っていないことがある。有名な観光スポットや体験の情報しかないため、訪問先にバリエーションがないという事情があり、京都は一泊だけする場所になってしまっているとのことであった。

同業公会からは、日本の他の自治体は、台南市と連携して、民間の旅行者同士のマッチングや様々な情報提供を行うなどしており、京都も分散観光につなげていこうとするならば、京都から積極的に様々な観光情報を伝えてもらう必要があること、その際には、観光客に旅行プランを提供する台南（台湾）の旅行会社に向けて、直接、情報提供するなど、連携して取り組む必要がある旨の話があった。

また、同業公会から京都の市バスへのスーツケース等の持込禁止について話題の提起があり、訪問団から、京都市においては手ぶら観光を進めており、京都駅における荷物の運搬サービスがあることを伝えたところ、その詳細な内容を尋ねられるなど、旅行業関係者において、市バスへのスーツケースの持込禁止が、切実な問題と捉えられていることがよく分かった。

訪問団においては、ともすると、相手国には手ぶら観光の取組やその情報が伝わらないまま、市バスへのスーツケース等の持込禁止の情報ばかりが伝わってしまい、京都への観光を忌避する動機にもつながりかねないおそれがあるとの懸念を抱いた。手ぶら観光の取組を広げていくに当たっては、荷物の運搬サービスなど、観光客目線から欠かすことができない情報についても、同時にしっかりと伝えていくことが必要であるとの認識につながった。

また、同業公会からは、京都市における市バスの観光客用バス路線の検討情報についても強い関心が示され、荷物持ち込みの可否や運行本数の充実度など、具体的なことが決まれば教えてもらいたいとの意向が示された。

以上のように、京都市において分散観光や手ぶら観光等を進めていくに当たっては、地元の旅行者等に対し、具体的な観光スポットや体験をはじめとする様々な周辺情報を伝えていくことが大切であり、そのためには、民間の旅行者同士が情報をやりとりできる場を設けるなど、台南市と京都市の連携の下、多様な主体が相互に情報交換や交流を進めていくことが必要であると強く感じられるものであった。

【主要な意見交換等の内容の記録】

○ 台南市における旅行先としての京都について

訪問団から同業公会へ、台南市における人気の旅行先として見たとき、京都はどうかについて尋ねたところ、同業公会から、人気のある場所は、便利な東京・大阪であり、大阪に行く人の中に、京都・嵐山や滋賀・びわ湖に行く人が多いという位置付けであるとの説明があった。また、個人旅行が多いとのことであった。

訪問団から、京都では、8月16日の五山の送り火や10月22日の時代祭などがあるが、個別イベントへの関心はどうか尋ねたところ、同業公会からは、最近では、京都の個別のイベントについても情報が入ってくるようになったので、この時期に京都へ行くとセットでこのイベントが見られる、という形で旅行者に勧めている。料金は高くなるが、日本には一期一会があり、日本の文化を感じることができるとアピールしているとのことであった。

訪問団から日本の食事についても尋ねたところ、同業公会からは、台湾には日本料理店が多数あり、日本の食事は、全く問題ないとのことであった。

確かに、訪問団が、台南市内を車で移動している際にも、市内に鰻井の店等、多数の日本料理店が日本語の屋号、看板で出店されているのを見受けた。

また、訪問団から、日本では Google 等で飲食店を検索することも多いが、台湾からの観光者が日本で飲食する場合はどうか尋ねたところ、台湾の方々も Google の使用は多い、また、会話も Google 翻訳があれば問題ないとのことであった。

○ 京都における分散観光の取組につなげていくための方策等

訪問団から、京都ではオーバーツーリズムの課題があり、分散観光にも取り組んでいることや、地元の魅力のあるスポットの紹介等もできることを説明し、台湾における関心の有無を尋ねた。同業公会からは、旅行プランは、予算に合わせて作成できるので、金閣寺等の有名スポットだけではなく、あまり知られていないスポット等も紹介していきたいが、そうした情報をどこから得られるかが分からず、窓口はどこになるのかとの旨の問いかけがあった。

訪問団から、京都市観光協会では、分散観光に取り組んでいるので、そうした情報は提供してくれることを伝え、紹介を申し出た。

また、京都市の中心区でも、観光地としてあまり知られていない寺社にも、貴重な絵画や美術品があり、少ない人数で見てもらえるところが

あることや、着物なども作っている現場に行けば、作っている過程を見ることができ、安く買えるなど、普通の旅行パッケージにはない場所や体験についても、希望があれば、訪問団の議員から直接紹介することができることなどを伝えた。

そうしたところ、同業公会から、京都の側から台南市政府等が行っているフェア等の機会を利用して、民間の旅行業者同士のマッチング等を通じて、台湾側に積極的に分散観光等に関する情報を提供していくことが効果的であるとの旨の話があった。

また、京都観光等の情報が、限られたものしかなく、京都は一泊だけする旅行先となっており、あとは大阪等に行くプランが多いという現状について説明があり、分散観光につなげていくなれば、もっと京都の様々な場所や体験等についての情報を積極的に提供してほしいとの話があった。

これら一連のやり取りから、訪問団としては、これまで観光客として多くの台湾の人々を日本に受け入れてきたが、その台湾の人々に対しても、京都の様々な情報が十分には伝わっていない現状があること、また、分散観光を推進していくためには、旅行業者等、民間の多様な主体による幅広い交流、情報交換、多様な主体から様々な情報を伝えていく努力が必要であることなどが分かった。

<同業公会の話の要旨>

- 昨日、日本の他の政令指定都市（仙台市）が、ランタンフェスティバル訪問に合わせ、15社ほどの旅行関連事業者とともに台南に来て、台南市の観光局が招集した50社ほどの地元旅行業者とホテルで交流し、それぞれの情報を交換していた。
- このように、京都からも台湾に来てもらえれば、台南市が日本へのツアーを扱っている旅行社などを集めて交流ができる。交流会は今年6月にも予定している。例えば、旅行社に限らず、着物の着付け業者、抹茶の販売業者など、京都の特色ある業者に来ていただいてアピールするのもよい。京都でいつ、どのようなイベントがあるかなどの情報を台湾の各旅行社に発信してもらえれば、それを受けた各旅行社がパッケージを作って販売する。
- 今年は台南400周年記念として多くのイベントがあり、その一環として、11月15日に台南国際トラベルフェアがあるので、是非京都市にも参加してもらい、台南市民に京都市を紹介いただきたい。
- 分散観光の推進にもつながるという観点で言うと、台湾から日本に行く方はリピーターが多いものの、京都については、訪れる場所やで

きる体験については、お決まりの情報が知られているだけになっており、おいしい鰻井はここ、抹茶が楽しめる町家カフェはここ、と行く場所が決まってしまっているのが現状である。

- ・ お決まりのコースしかないことから、京都は、1泊くらいしかしない場所という認識になっており、あとは大阪に行ってしまう。もう少し観光客を京都に滞在させるためには、周辺情報を含め、より多くの情報が欲しい。いつも同じところだと旅行客も飽きてしまうので、旅行社も様々なパッケージを紹介できる方がよい。団体も個人の旅行も、ここに行ったらこういうのがあるという情報をいただきたい。

○ 市バスへの大型荷物の持ち込み禁止について

同業公会から、京都では公共バスに大型の荷物を持ち込むことが禁止されており、個人旅行では荷物の取扱いに困ること多いことから、荷物を預けるところが増えているかどうかについて問いかけがあった。

訪問団からは、預けられる場所を増やしていること、また、京都駅ではリーズナブルに荷物を宿泊施設に運ぶサービスがあることなど、手ぶら観光を推奨していることを紹介した。

これについて、同業公会から更なる興味が示され、より詳しく、チェックイン、すなわち京都駅からホテルまでだけでなく、チェックアウト後、すなわちホテルから京都駅までや、それだけでなく、ホテルから大阪まで荷物を送ってもらえるサービスはあるかなどの確認があった。

このやり取りを踏まえ、訪問団においては、同業公会が、大型荷物の持込禁止は、旅行者目線から見た時に切実な問題であり、物理的、心理的障壁であると捉えていること、また、この問題に対する対応策となる荷物の保管、運搬サービスに対して、とても高い関心を有していることが分かった（なお、対応している宿泊施設においては、京都市内の宿から大阪の宿へ、あるいは、京都市内の宿から関西国際空港駅へのキャリアサービスも行われている。）。

京都において手ぶら観光を推奨していくのであれば、これを補うサービスの情報についても併せてしっかり発信していかなければ、ともすれば、バスへの荷物の持ち込みの禁止ばかりが伝わり、旅行プランを勧める立場の旅行業者、旅行者が、京都への観光を忌避するだけになりかねないような側面があることが認識できた。

○ 観光客用バス路線の検討情報について

訪問団から、観光客用バス路線の導入が新市長の選挙時の公約に掲げられており、今後、検討されるであろうことについて情報を提供したと

ころ、こちらについても、同業公会から、荷物の持ち込みの可否や、運行本数の充実度など、詳細が分かった時点で、是非詳しい情報が欲しいとの強い関心が示された。

また、分散観光にもつながる効果的な取組のアドバイスとして、台南市では、1コース・2コース・3コースと、市内を回るコース、宗教関連施設を訪れるコース、文化を体験できるコースなどで、路線を分けていることについて紹介があった。これらのコースは、台南市政府のホームページでも見ることができ、おすすめコースとして紹介されているとのことであった。

○ 京都市内の観光による混雑等、京都市に改善を求める点等

訪問団から、観光者目線で京都市に改善を求めたい点について尋ねたところ、同業公会からは、京都はやはり観光客が多く、撮った写真には景色ではなく人ばかりが写っている状況であるとして、先にも話に上がった分散観光につながる京都市のあまり知られていないスポットや体験も含めた様々な情報が欲しいとのことであった。

その他、同業公会から、個人での旅行が増加しているとして、車（運転手付きの車）を借りるといった需要があるため、京都での制度やサービスがどうかについて尋ねがあった。訪問団から、京都だけではなく、日本の法律での決まりとして、運転手付き営業車は、緑ナンバーとなること、京都では、白ナンバーで関西国際空港まで迎えに行っている実態があると聞くが、違法であり、対策を講じていることなどを紹介した。

(平山団長 挨拶)



(蔡理事長 挨拶)



(意見交換の様子)



(4) 歴史的建造物の活用に係る視察

1 日 時 令和6年2月24日(土) 13:30~16:00

2 場 所 林百貨、台南市美術館1・2号館

3 内 容 視察、説明聴取及び意見交換

4 出席者

(1) 林百貨

林百貨 総経理 陳 慧姝 氏

台南市台日文化友好交流基金会 荣誉董事長 郭 貞慧 氏

台南市派遣京都市会議員団

団長：平山 よしかず 議員(副議長 公明党京都市会議員団)

団員：寺田 一博 議員(市会運営委員会委員長 自由民主党京都市会議員団)

みちはた 弘之 議員(自由民主党京都市会議員団)

おんづか 功 議員(維新・京都・国民市会議員団)

とがし 豊 議員(日本共産党京都市会議員団)

随行者：大西 則嘉(京都市会事務局調査課調査課長)

石田 衛(京都市会事務局総務課担当係長)

(2) 台南市美術館

台南市美術館 館長 林 秋芳 氏

台南市台日文化友好交流基金会 荣誉董事長 郭 貞慧 氏

台南市派遣京都市会議員団

団長：平山 よしかず 議員(副議長 公明党京都市会議員団)

団員：寺田 一博 議員(市会運営委員会委員長 自由民主党京都市会議員団)

みちはた 弘之 議員(自由民主党京都市会議員団)

おんづか 功 議員(維新・京都・国民市会議員団)

とがし 豊 議員(日本共産党京都市会議員団)

随行者：大西 則嘉(京都市会事務局調査課調査課長)

石田 衛(京都市会事務局総務課担当係長)

5 概要

(1) 林百貨

日本統治時代の1932年に、山口県出身の経営者・林方一氏により創立・開業。設計者は石川県出身の建築家・梅澤捨次郎氏。

1945年、連合軍による大規模な空爆で、屋上、神社、外壁、床などが損傷したが、戦後建物は改修され、台湾製塩総工場、中華民国空軍及び警官の派出所などに使われた。

台南市により1998年に台南市の古蹟に指定され、2010年から修復作業が行われ、2013年に完成した。修復に際しては、創業当時の姿が再現されたほか、連合軍によって爆撃された跡や当時のままの床材の一部などを記録として残されている。屋上にあった神社も「林百

「貨頂楼神社遺跡」として残されている。

(林百貨外観)



(林百貨頂楼神社遺跡前)



(2) 台南市美術館

近現代館（1号館）と当代館（2号館）との2棟で構成されている。

1号館は日本統治時代（1931年）に建設した台南警察署を前身とし、戦後も引き続き警察署として利用された。1998年に台南市の古蹟に指定された後、リノベーションを施されて美術館として生まれ変わった。設計技師は林百貨と同じく、梅澤捨次郎氏。

2号館は戦前の台南神社跡地に、日本の坂茂建築設計事務所と台湾の建築家、石昭永氏との共同設計で建てられた。

台湾で初の事例となる行政法人による運営で、展示室や収蔵庫のほか、多目的ホール、子ども芸術センター、クリエイティブ工房、図書資源センター、美術科学研究センターを有し、アートサイエンスの研究拠点となっている。

(1号館外観)



(2号館外観)



6 視察、説明聴取、意見交換等の内容まとめ

(1) 林百貨

林百貨は、日本統治時代に林百貨として建てられた建物で、途中、別の用途に用いられたり、休眠していた時期があったりしたが、市の古蹟に指定して修繕したのち、現在の経営者が経営権を取得して、2013年にオープンした、昭和の日本の百貨店を彷彿とさせるような佇まいの施設であった。

今年度、10周年を迎えた。経営者の陳総経理は、地元で、別の百貨店を経営しているが、そこは、台南市民を主な客層としていることに対し、林百貨は、建物の価値をいかし、ほとんどを台南のオリジナル商品として展開することにより、観光客（海外からと台湾国内からが半々程度）を主な客層とする経営を行っているとのことであった。百貨店の中でも、独自色を強く打ち出せるため、集客力が高いとのことであった。

実際に、店内は多くの客でごったがえしており、観光客と思われる方々も多いと見受けた。

林百貨内に設けられているカフェ（林珈琲）で陳総経理から説明を受けた。カフェの雰囲気も、流れている音楽（音楽もオリジナル作成したものを使用）も、どこか昭和の日本を思わせるような趣があり、確かに、目にするものが、オリジナリティーにあふれていて、観光客への訴求力が高いのではないかと見受けた。

陳総経理から、経営に関し、台南市政府等からの補助金が出ないことや、建物が古蹟に指定されているため、壁などに釘を打ったりできないことなど、特有の苦労はあるが、この建物のおかげでオリジナリティーが打ち出せ、多くの観光客に訪れてもらうことができていること、順調に経営できていることから、古蹟をまちの活性化にいかすことができているとの話があった。

林百貨の建物の屋上には、第2次世界大戦中に砲撃を受けた痕跡や、当時の神社が保全され、観光スポットとしても活用されており、多くの観光客等で賑わっていた。

以上を踏まえ、日本でも百貨店は軒並み減少していった中、古蹟に指定された建物の魅力をいかし、台南のオリジナル商品を展開することで、観光客層への訴求力を高める着実な民間経営をされており、まちの活性化にもつながっている点において、大変、優れた取組であるとの所感を得たものである。

(2) 台南市美術館

台南市美術館は、1号館と2号館で構成されている。1号館については、日本統治時代の建物であり、リノベーションし、美術館として活用されている。2号館は現代建築の建物である。1号館と2号館の間には少し距離があるため、まず古蹟の活用が図られた1号館を視察した後、2号館において、台南市美術館の林館長から説明を聴取するとともに意見交換を行った。

なお、2号館の視察前に、台南市議会の議事堂に立寄り視察した。

台南市美術館は、通常的美術館では9割程度、公からの補助が入っているところ、5割程度の補助で運営ができています。その他収入の内訳としては、チケット、関連商品の物販、レストラン、カフェの売上や駐車場の料金などとともに、スポンサーからの協賛金で構成されているとのことであった。このように、補助比率の低い中で運営ができていているのは、古蹟をリノベーションしていることなどを含めた美術館の成り立ちや、レストラン・駐車場等収入が見込めるまち中の立地、展示企画の内容の良さなど、美術館の特性が、収益の柱となるスポンサーの協賛金の獲得に向けた訴求力となっているためであるとの話であった。

また、台南市が観光を得意分野としており、台南市美術館の設立に際してのビジョンや立地が優れていたことで、これまで台南市の中で最も来訪者のあった孔子廟をしのぎ、現在は一番の観光スポットとなっているとのことであった。

最後に、林館長から、優れた展示企画が重要であること、台南市が文化のまち、工芸のまちであることを踏まえて、優れた美術や工芸のある京都市と、市立の美術館同士の交流や展示企画等を行っていききたいとの意向を大変、熱心にお示しいただいた。

以上のように、台南市美術館が、古蹟を活用することによって美術館の魅力を高め、市民や観光客を強く惹きつける訪問先となっていること、公からの補助に大きく頼ることなく、独自のスポンサーを獲得するなど自律的に運営できていることから、歴史的な建造物の優れた活用事例であるとの所感を得たものである。

【主要な聴取内容等の記録】

(1) 林百貨（説明者 陳総経理）

・ 林百貨の建物の歴史経過等

現在の林百貨店は、台南の有名な観光スポットとなっている。

林百貨の建物は、1932年、日本人の林方一氏によって建てられ、日本との関係が深い。素敵な建物を残してもらった。

「林百貨」は創建当時の名称である。当初の林百貨は、1942年に第2次世界大戦で経営中止となった。その後、警察署や台湾塩業の事務所として使われていたが、建物も古くなりしばらく閉鎖されていた。

1998年に市の古蹟として指定され、市が修繕した。

2012年に一旦観光・見学施設としてオープンした。

その後、2012年9月に我々が林百貨の経営権を取得して2013年に百貨店としてオープンした。経営の動機は、元々、台南で、フォーカスという地元デパートを運営しているのだが、当時、三越など外資系のデパートが多かった中で、良い立地に古蹟が活用された建物があると知ったためである。

昨年、林百貨の10周年で記念イベントを実施した。林百貨の誕生日が1932年12月5日なので、毎年12月第1週の土曜日に盛大にイベントを開催し、パレードも行っている。毎年テーマを決めてパネル展示もしており、3～4千人は来場する。祭りのような爆竹の使用はないが、パレードでは盛大に音楽を演奏する。

(この話題に際しては、基金会の郭栄誉理事長から、基金会は第1回目からパレードを支援している、埼玉県内の市のマスコットキャラクターが参加したこともあり、京都市も何か出すことができれば良いPRになるとの提案があった。)

・ 建物の活用における権利関係等

他の建物と違い、文化保存の対象なので、使用に当たって、建物に釘を打つことはできないし、建物を傷つけてはいけないなどの制約がある。

また、台南市政府や国からの補助はなく、林百貨側の経営の中で建物を維持管理している。

台南市の歴史的価値が高い建物として登録されているが、市が指定したものであり、所有者は台南市政府である。我々は賃料を支払って、経営の権利のみを市から得ている。

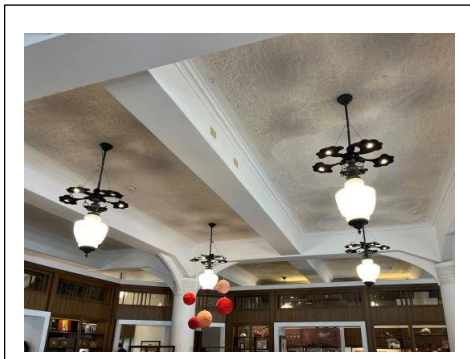
・ **林百貨の強み等**

百貨店の経営は一般的に大変だが、ここ林百貨は、日本統治時代の建物を活用し、台南オリジナルの、地元だけのものを中心に販売しており、この建物のおかげもあって、観光客が来てくれるというのが強みである。観光客は50%が台湾国民、残り50%は海外からである。コロナ前は日本人の比率が高かったが、昨今は、円安の影響もあるのか、日本人は少なくなっている。

カフェのメニューも、ほとんどオリジナルである。ここの昼食や夕食にはオムライスを提供しているが、1930年代、台南で初めて洋食を食べることができた店がここだった。当時のオムライスは一般の人の1箇月分の給料くらいかかる高価なものであったこともあり、当時、ここでお見合いするのが、一番成功率が高いと言われていた。そうした背景も踏まえて、現在、当時のオムライスを再現して売っている。

店内で流れている音楽も、林百貨で独自に作成したCDを用い、春夏秋冬で異なる音楽を流している。屋上には神社もあり、オリジナルティーあふれる空間を作ることで、観光客等が多く訪れている。

(林百貨 屋内の設え)



(意見交換の様子)



(屋上スペースの活用状況)



(第二次世界大戦時の砲弾跡)



(2) 台南市美術館（説明者 林館長）

・ 台南市美術館の設置等

1号館は2018年、2号館は2019年にオープンした。台南市は観光の開発を得意としており、美術館設置前、台南において観光客が最も多く訪れていたのは、孔子廟だったが、今では台南市美術館がそれをしのいでいる。

・ 台南市美術館の経営上の特徴等

台南市美術館は、台南市政府の財産、所有で、設置に係る費用（当時18億元）も台南市政府により拠出されている。

台湾の中でもこの美術館は特別であり、台湾では初の独立行政法人による運営となっている。このため、経営面では、自主財源の確保について高い比率が求められる。通常の実術館は9割ほどの補助を受けて運営しているのに比べて、台南市美術館への補助は約半分であり、残り半分は自らの収益で運営している。

収入は、主に3つである。一つ目は、展覧会などのチケット収入と関連商品の物販、二つ目は、レストラン、カフェ、地下駐車場の料金である。立地がよいので、地下駐車場の料金収入も大きい。三つ目はスポンサーの協賛金であり、これがとても大切である。

・ 台南市美術館の経営上の強み等

多くを自主財源で運営できているこの美術館は、台湾でも話題となっている。

設立時、台南市長は、頼清徳市長（台湾次期総統）だったが、その時のビジョンがとても良かった。美術館は、資質や評判が大変重要である。古蹟を活用した1号館の雰囲気も良いし、1号館、2号館のまち中の立地も良く、駐車料金も得られる。館内レストランも良いレストランが入っており、お客がたくさん入る。

これらに加えて、素晴らしいイベント、展覧会を開催することが、企業、スポンサーの獲得、協賛金の獲得につながる。

これらのことは、他の通常の実術館ではなかなか困難なことであり、台南市美術館が独立行政法人として、補助金収入が少なくとも運営できている理由である。

・ 京都市立美術館と連携した展覧会の実施の提案

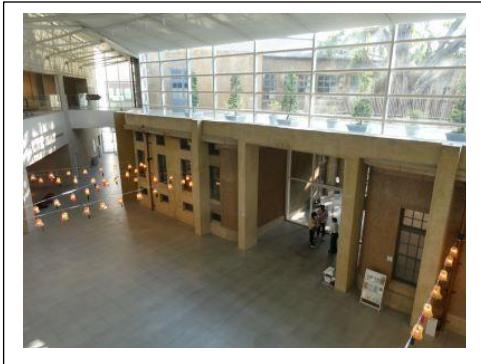
美術館の運営では、いかに質の高い展示、企画を行っていくかが大変重要であると認識している。

台南市立美術館では、他の美術館とのコラボレーションも行っている（当日も、世界4大博物館の一つである国立故宫博物院所蔵の国宝が展示されていた）。台南市は台湾の中でも文化のまち、工芸の

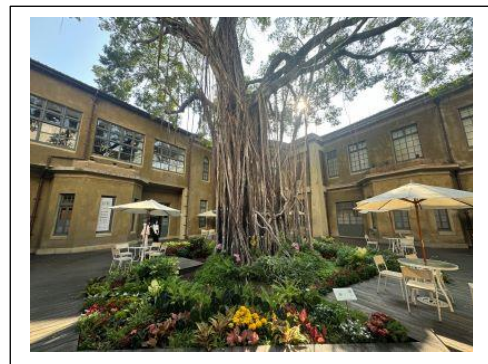
まちである。工芸もとても栄えているため、京都市の美術館や工芸館と交流できればと思っており、将来的には京都市美術館と台南市美術館が手を組んで展覧会を開催したい。連携して開催することで、双方のコストも低くなるものとする。

市立の美術館同士の交流はとても大切であると考えており、心から実現させたいとの思いを持っている。是非、検討をお願いしたい。

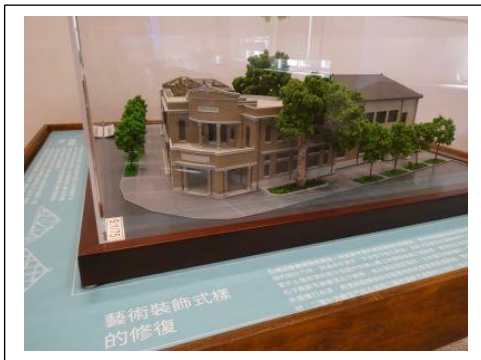
(1号館 リノベーションされた館内)



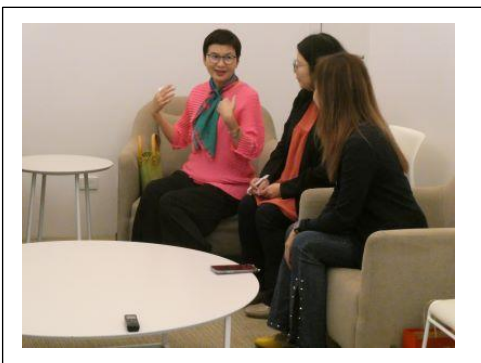
(1号館 中庭)



(1号館 リノベーション前の建物の模型)



(意見交換の様子)



(5) ランタンフェスティバル開幕式及びランタンエリア視察

1	日 時	令和6年2月24日(土) 19:00~21:30	
2	場 所	台湾鉄道沙崙駅付近	
3	出席者	国際友好都市(18自治体(米国2、韓国1自治体を含む。))	
	青森県	県職員等	計3名
	弘前市	櫻田宏市長ほか	計4名
	宮城県	石川光次郎宮城県議会日台議員連盟会長、 佐々木幸士副会長、高橋宗也幹事長代理、 わたなべ拓事務局次長、 高橋克也事務局次長ほか	計7名
	仙台市	藤本章副市長、西澤啓文議員ほか	計6名
	湯沢市	佐藤一夫市長、高橋肇議長ほか	計9名
	山形市	佐藤孝弘市長、長谷川幸司議長ほか	計7名
	土浦市	安藤真理子市長、平石勝司議員ほか	計4名
	日光市	粉川昭一市長、田村耕作議長ほか	計4名
	群馬県	県職員	計1名
	前橋市	市職員等	計4名
	みなかみ町	町職員等	計5名
	富士宮市	須藤秀忠市長ほか	計6名
	滋賀県	奥村芳正議長、柴田清行議員、 菅沼利紀議員	計3名
	京都市	台南市派遣京都市会議員団	計7名
	山口県	村岡嗣政知事ほか	計3名
	ほか	トーランス市、ウェストコビーナ市(アメリカ)、 慶州市(韓国)	

※ 出席者は台南市提供資料を基に作成

4 台湾ランタンフェスティバルの概要

1990年から開催されている、台湾の旧正月を祝う台湾最大規模の祭りであり、毎年、国内外から多くの観光客が訪れる。

開催都市は毎年変わり、2024年は、16年ぶりに台南市で開催された(2023年は台北市)。

会場には多くのランタンが飾られ、台南市で開催される2024年は、「台南400年」をテーマに、エコを意識したグリーンエネルギーを用いた最先端のデジタルアートなど、光と影の芸術が披露された。

5 参加内容まとめ

台南市から、2024台湾ランタンフェスティバル開幕式への招待を受け、京都市会議員団として参加したものである。

開幕式、友好都市パフォーマンス(仙台市雀踊り、山形花笠踊り)が実施され、開幕式には、訪問団から平山よしかず団長が代表として臨席した。

ランタンエリアでは、台南市政府農業局のブースや、日本の他都市等がランタン出展によるPRを行っているところなどを視察した。

ランタンエリアでは、政令指定都市を含む多くの友好都市がランタンを

出展していた（山口県では、知事が自県のランタンの前で、飛び入りで自県のPRも行っていた。）。京都市からの出展は見られず、訪問団としては、このことに限られるものではないが、全体として、京都市から台南市に向けての積極的な関わりをしようという姿勢、友好交流の意識の醸成に向けた取組の一層の必要性を感じた。

また、スマートフォンからQRコードを読み取り、出身地や氏名、願い事の種類を選択することで、これらが記載されたデジタルランタンを上げることができるデジタルスクリーンが設置されており、祭事と環境への配慮を上手く融合した事例であると見受けた。

(開幕式ステージ 平山団長臨席)



(台南市政府農業局の出展ブース)



(デジタルのランタンスクリーン)



(日本の各都市、鉄道会社が出展したPR用ランタン)



(6) 連合交流会（台南市長表敬訪問）

1 日 時	令和6年2月25日（日）9：00～10：20
2 場 所	台南市政府永華市政府センター1階 東哲庁
3 出 席 者	台南市 市長 黃 偉哲 氏 台南市政府広報及び国際関係処長 蘇 恩恩 氏 台南市都市外交顧問 野崎 孝男 氏 国際友好都市（16自治体（米国2、韓国1自治体を含む。）） 青森県 県職員等 計3名 弘前市 櫻田宏市長ほか 計4名 仙台市 藤本章副市長、西澤啓文議員ほか 計6名 山形市 長谷川幸司議長ほか 計4名 土浦市 安藤真理子市長、平石勝司議員ほか 計4名 那珂市 先崎光市長ほか 計2名 日光市 粉川昭一市長、田村耕作議長ほか 計4名 前橋市 市職員等 計4名 みなかみ町 町職員等 計5名 本庄市 市職員 計1名 富士宮市 須藤秀忠市長ほか 計6名 京都市 台南市派遣京都市会議員団 計7名 山口県 村岡嗣政知事、島田教明副議長、 平岡望議員、曾田聡議員、 篠崎圭二字部市長ほか 計12名 ほか、トーランス市、ウェストコビーナ市（アメリカ）、 慶州市（韓国）

※ 出席者は台南市提供資料を基に作成

4 連合交流会の概要

(1) 次第

黄偉哲市長挨拶

来賓挨拶

- ・ 山口県 村岡嗣政知事
- ・ アメリカ トーランス市 陳光豪市長
- ・ アメリカ ウェストコビーナ市 Tony Wu 市長
- ・ 韓国 慶州市 失洛榮市長

各自治体との記念品贈呈儀式（黄市長と各自治体代表）

写真撮影（黄市長と各自治体訪問団全員）

(2) まとめ

連合交流会は、16自治体の参加により実施された。

はじめに、黄偉哲市長から挨拶があり、前日に開催された2024台

湾ランタンフェスティバル開幕式には、スマートフォンの情報を利用した計測で、約85万人が訪れたこと、当日の関連イベントを含めると、市内全体で200万人近い来訪があったことが紹介された。黄市長によると、同フェスティバルは国家レベルのイベントであり、16年ぶりに台南市で開催したもので、台南市民は、熱気に包まれている。また、同フェスティバルは、3月10日まで開催され、期間中、1千万人の来訪を予想している。この機会に、友好都市の人々に台南の文化を体感していただき、友好都市の皆さんに伝わることを願うとともに、友好都市におかれても、この機を利用して、自らの都市を台南市民に紹介してほしいとのことであった。

また、台南市においては、文化、教育、体育、産業等、友好都市の皆さんと一層、交流を促進していきたいとのことであった。

これを受け、日本の自治体を代表して、山口県知事から挨拶があり、前日の開幕式では、台南市の伝統文化を体感し、素晴らしいものと感じたこと、また、日本の自治体もランタンの出展や踊りの披露等、文化を紹介する機会を得たことについて、謝辞が述べられた。また、アメリカ、韓国の自治体からも、それぞれの都市の紹介や友好交流に向けた思いなどが語られた。

その後、各自治体との間で記念品の交換が行われ、訪問団からは、平山よしかず団長が黄市長との間で、記念品を交換した。

訪問団からは、京都国際マンガミュージアム作成の黄市長の似顔絵等をお渡しした。その際、平山よしかず団長から、日本の漫画であることを伝えたところ、黄市長からは、「かっこいい」と発言があり、会場の注目も集まった。

その後、連合交流会に参加した自治体の代表による記念撮影を行った。

以上、訪問団においては、前日のランタンフェスティバルにおいて、台南市の文化や、その背景、人々の熱気を体感するとともに、連合交流会において、黄市長の、日本をはじめとする各自治体との友好交流に向けた熱意をお聞きした。

訪問団においては、こうした人々が集まりやすい機会を利用し、交流を進めることで、互いの文化に触れることができ、友好交流の輪が広がることを実感するとともに、台南市民の日本、京都に対する友好交流の熱意が大変に高いことを改めて認識し、京都市としても、この熱意に対してより積極的に応えていく必要があるとの所感を得たものである。

(記念品の交換)



(黄市長と訪問団による記念撮影)



(各都市代表者による記念撮影)



(出席者の様子)



注：各関係先との意見交換等の内容のうち、人数、金額等の各種数値や制度等については、概ね通訳を通じてその場で聴取した内容であり、当事者の認識に基づくものです。当事者の認識違いや通訳時の行き違いなどにより、実際の事実関係とは異なる場合があります。